

群 教 セ	G10 - 10
	平16.218集

# 道徳的価値を考えるきっかけとなる 映像資料集の作成と活用

長期研修員 黒岩 順

## 《研究の概要》

小学校の道徳の授業で、児童が道徳的価値について考えるきっかけとなる様々な人の行いや思い、自然の様子などの静止画や動画を取り入れた映像資料を作成した。作成した映像資料を基に展開例を加え映像資料集とした。この映像資料を授業に活用したことにより、児童は興味や関心をもって道徳的価値について考えることができ、その時間のねらいに迫ることができた。

【キーワード：道徳 小学校 映像資料 マルチメディア】

## I 主題設定の理由

平成15年度道徳教育推進状況調査（群馬県）に「道徳の授業を受けて楽しいまたはためになると感じている」児童生徒の割合を問う項目があった。その報告から、道徳の授業を楽しいまたはためになると感じている児童生徒が少ないと捉えている学校が多いことが分かった。

これは校内の道徳教育の指導体制が充実していないことや授業が充実していないと学校が捉えているからである。道徳の授業を充実させ、魅力ある授業を行うことができれば、児童生徒に道徳の授業の面白さや充実感を味わわせることができるであろう。授業をより充実したものにするためには、児童生徒が興味や関心をもち、道徳的価値について考えるきっかけとなる資料が必要である。道徳の授業で使われる資料は授業を成り立たせる上で大きな働きをする。資料から児童生徒は道徳の授業に興味や関心をもち、道徳的価値を考えるきっかけとなり、考えを深めていくことができる。そこで、道徳の授業が魅力的なものになり、道徳的価値を考えるきっかけとなる資料を作成し、提供することにした。

先の調査では道徳の授業で使われる資料に読み物資料を使っている学校の割合が多いことも分かった。読み物資料も児童の心を揺さぶることができるものが多くあり、道徳の資料としてよく使われている。しかし、映像資料は読解を必要とする読み物資料と異なり、道徳的価値を無理なく効果的に気付かせることができる。そこで、道徳的価値を考えるきっかけとなる様々な人の行いや思い、自然の様子などを表す静止画や動画を作成し、この映像資料と共に展開例を加え道徳の授業づくりに活用できる映像資料集を作成した。本映像資料集を授業で活用することで、児童は興味や関心をもつことができ、授業のねらいとする道徳的価値について容易に考えることができる。これが魅力ある道徳の授業づくりにつながるものと考え本主題を設定した。

## II 研究のねらい

道徳的価値を考えるきっかけとなる様々な人の行いや思い、自然の様子などを映像資料として作成する。それを授業づくりに活用することで、児童は興味や関心をもち、授業のねらいである道徳的価値について考えることができることを実践を通して明らかにする。

### Ⅲ 研究の見通し

- 道徳的価値をもつ様々な人の行いや思い、自然の様子などを静止画や動画として取り入れれば、児童は興味や関心をもち、道徳的価値を考えるきっかけとなる映像資料となるであろう。
- 本映像資料を道徳の授業づくりに活用すれば、児童は興味や関心をもって授業に取り組み、その時間のねらいである道徳的価値について、考えることができるであろう。

### Ⅳ 研究の内容

#### 1 基本的な考え方

##### (1) 道徳の授業づくり

道徳の授業では、道徳的価値について考えることで、児童の道徳的心情を養うことができる。道徳の授業で扱う資料は、児童に興味や関心をもたせ、その時間でねらう道徳的価値について考えるきっかけを与えるものでなくてはならない。道徳的心情は人間としてより良い生き方を求めようとする気持ちをもつことで養われる。道徳的価値について考えるということは、より良い生き方とは何かを考えることであり、道徳的価値を理解し、自分と道徳的価値との関わりを考え、これからの生き方について考えることである。児童に興味や関心をもたせ、道徳的価値について考えるきっかけを与える資料が魅力ある授業づくりに必要である。

##### (2) 興味や関心をもち、道徳的価値を考えるきっかけとなる映像資料とは

道徳の授業の資料には読み物資料や新聞記事などが多く用いられるが、映像は読解を必要とする読み物資料と異なり道徳的価値を無理なく効果的に気付かせることができる。そこで、映像資料を作成し、道徳の授業づくりに活用することにした。

興味や関心をもって、道徳的価値を考えるきっかけとなる映像は児童の生活の中に多く存在する。児童の身近な所で生じる出来事で「なぜだろう」と疑問を抱かせる映像や「美しい」と感動を抱かせる映像、「ひどい」と憤りを感じる映像、「なるほど」と共感を抱くことができる映像など、児童の心を揺さぶる映像を作成する。これらを道徳の授業づくりに活用すれば、児童は、どのように考えどのように行動すべきかなど、道徳的価値を考えるきっかけとなるであろう。

道徳的価値を考えるきっかけとなる映像として道徳的価値をもつ様々な人の行いや思い、自然の様子を3点を中心に映像資料を作成する。

人の行いについては、人の行いやそれによって生じた様々な場面を映像資料として作成し、これを提示することによって、なぜその場面のような状態になったのかを考えることが道徳的価値を考えることにつながる。

人の思いについては、主に人が思いを語る場面を中心に映像を作成する。様々な人の話す内容からその人の思いを感じ取らせ、そこから道徳的価値について考えさせる。

自然の様子では、自然の美しさや雄大さを表す映像を作成し提示する。これらを視聴することで児童に自然のもつ偉大さや人の力の及ばぬ力強さを感じ取らせる。

##### (3) 作成方針

- 様々な行いや行いによって生じた場面を映像資料とする。
- 思いを語る場面を映像資料とする。
- 自然の映像はできるだけ異なった季節を取り上げたり、撮影場所を変えたりして異なる条件で撮影し、普段見逃しているものを見つけることができるようにする。
- 静止画はJPEG形式で、動画はMPEG形式にする。

- 動画は再生時間が二分以内となるように編集する。
- HTML形式でまとめ、クリックするだけで静止画や動画を表示できるようにする。
- 授業づくりに役立つように映像資料を活用した展開例（PDF形式）を作成する。

## 2 道徳映像資料集の構成

トップページ 主題名ページ

		資料名（◎：動画、△：静止画）	
思いやり・親切	低学年	あたたかいところで	・展開例 △エレベータの操作ボタン △トイレの手すり △玄関のスロープ
	中学年	小さな親切	・展開例 ◎止まったままの自動車 △踏切を通過する自動車 △踏切を通過した自動車
	高学年	相手の立場を考えて行動しよう	・展開例 カッコウの音声 △様々な人のための施設 △誘導ブロック上の自転車 ◎視覚障害者の話① ◎視覚障害者の話② ◎視覚障害者の話③
信頼・友情	中学年	友達をはげまそう	・展開例 ◎長縄跳び練習の相談 ◎長縄跳びの練習
	低学年	野鳥にやさしく	・展開例 ◎柿の実を食べる鳥 △ヒヨドリ △上に実を残した柿の木 △実のなくなった柿の木
自然愛・動植物愛護	中学年	自然を大切にしよう	・展開例 △コマクサ ◎山頂の柵 ◎保護監視員の話① ◎保護監視員の話② ◎道路閉鎖
	高学年	環境のために	・展開例 △ゴミの散乱した海岸 △外国から流れて来たゴミ △フジツボのついたゴミ
	低学年	自然の美しさ	・展開例 ◎小さな滝 △大きな滝 ◎大きな滝 △水った滝 ◎水った滝
感動と畏敬	中学年	美しい朝日	・展開例 △白んだ山の稜線 ◎山から顔をのぞかせる太陽 △昇った太陽
	高学年	敬う心	・展開例 △たなびく噴煙 △静かな浅間山 ◎噴煙を上げる浅間山 △夜の浅間山
	低学年	みんなでつかうもの	・展開例 △整頓された部屋 ◎遊んで帰る子どもたち △遊んだ後
公德心・規則尊重	中学年	公共の物を大切に	・展開例 △散乱するゴミ △道端の花壇 ◎花作りでゴミを減らす △ゴミのない道
	高学年	規則を守る	・展開例 △夜のゴミ集積所 △朝のゴミ集積所
	低学年	家でお手伝い	・展開例 ◎3人のお母さん達の会話 ◎お母さんの話① ◎お母さんの話② ◎お母さんの話③
郷土愛	低学年	私のすんでいるところ	・展開例 △地域の自然や文化財①から⑫
	中学年	大事にしてきた桜	・展開例 △桜の古木①から④ △説明看板 △保護活動の案内板 △道路閉鎖の看板
	高学年	郷土の宝を守ろう	・展開例 ◎山頂の柵 ◎保護監視員の話① ◎保護監視員の話② △コマクサ

## 3 道徳映像資料集の内容

### (1) トップページ

起動すると七項目の価値項目が表示され、価値項目の文字をクリックすると主題名ページに移る（図1）。

### (2) 主題名ページ

主題名ページは、低学年、中学年、高学年の3ブロックに分かれている。各学年ブロックで使う資料を同じページに配置し、授業づくりの際に他学年ブロックの資料も活用しやすいようにした。各学年ブロックの資料は、道徳的価値に関わる主題名とねらいを記述した。左の展開



図1 トップページ

例という文字をクリックすると展開例がPDF形式で表示されるようにした。中央に動画、右が静止画を拡大表示するためのサムネイル（縮小画像）を配置し、クリックするだけで拡大表示することができるようにした（図2）。

(3) 展開例

展開例は映像資料活用のポイントを示すとともに、映像資料から道徳的価値を考えるきっかけとなる発問を例示し、授業づくりの参考となるようにした（図3）。



図2 自然愛・動植物愛護のページ

小学校中学年 道徳			
主題名 自然を大切にしよう			
3-(1) 自然愛と動植物愛護			
1 ねらい コマクサの保護活動を知り、自然を大切にしようとする心情を育てる。			
2 資料名・資料の概要			
資料名	資料の概要	期待する効果	
1 コマクサの花	コマクサの開花状態の静止画 	コマクサの花の美しさに気付く。	
2 コマクサを囲む柵	コマクサの自生地を柵が囲んでいる様子を示す動画 	なぜ、コマクサを高い柵で囲むのか疑問を持つ。	
3 保護監視員の話①	コマクサが盗掘によって絶滅しそうになったので保護監視活動が始まったということを話している動画	コマクサを盗掘する人の存在を知り、どのように保護活動したら良いか考えるきっかけとする。	
4 道路閉鎖	夕方はアクセス道路を閉鎖し、人が近寄らないようにするために道を閉鎖する様子を示す動画 	人によって絶滅しかけた植物を守るための方法を考えるきっかけとする。	
5 保護監視員の話②	「この地域の豊富な高山植物をたくさんの人に目にきて欲しい。」と安全に訪れることができるように願って歩道の整備をしていると話す動画 	美しい自然をたくさんの人に目に欲しいという保護監視員の活動や心情に気付く。	
3 映像資料活用のポイント			
○ コマクサの花が咲いている静止画を提示し、コマクサの花に興味や関心をもたせる。			
○ 資料4と資料5を比べ、自然を守るためにどうしたら良いかを考えるきっかけとする。			
4 展開			
	学習活動(○主な発問)	欄	予想される児童の反応
導入	1 コマクサの花の静止画(資料1)を見る。 ○この花を見たことありますか。	5	・知らない。 ・きれいな花だ。
			・コマクサの一つ一つの花が大きく見えるようなものを選んで提示する。
展開	2 コマクサの自生地を柵が囲んでいる様子を示す動画(資料2)を見る。 ○なぜ、コマクサを柵で囲むのですか。	5	・コマクサが動物に食べられてしまうから。 ・コマクサが盗まれてしまうから。
	3 保護監視員の方から柵の意味やコマクサの保護について話(資料3)を聞く。	10	・コマクサを柵で守らなければならない理由が分かった。 ・人の手でコマクサが減っていったことに気付くように助言する。
	4 道路を閉鎖する場面(資料4)を見る。 ○なぜ、道を閉鎖するのですか。 ○どうして、こんなにしっかりと閉鎖するのですか。	5	・コマクサや高山植物が盗まれないようにするため。 ・ゲートを壊してコマクサを取りに入ってしまう人がいると思う。
	5 保護監視員の話2(資料5)を聞き、この地域の自然の美しさや貴重さを誇りにしていることを理解する。 ○なぜ、保護監視員の人にはたくさんの人に来て欲しいと願っているのですか。	5	・たくさんの人に自然の美しさを見て欲しい。 ・地域を見て、好きになって欲しい。 ・おじさんの好きな所だから。
終末	6 保護監視員は人を遠ざけたり近づけたり様々な方法で自然を守ってきた。自然を守るためにはどのような方法が良いのか考え発表する。 ○保護監視員の人たちのような方法で自然を守っていく方法が良いか、もっと良い方法があるか考えよう。	15	・コマクサの美しさや大切さを知らせ、一緒に守ってくれる人を増やす。 ・マナーが大切だ。 ・資料4と資料5を基に、自然を守るためにどうしたら良いか考えるきっかけとするように助言する。 ・児童の様々な考えを認め励ます。

図3 展開例



#### (4) 映像資料の内容

ア 主題名「相手の立場を考えて行動しよう」  
資料名「視覚障害者の話②」

目の不自由な方が話す映像資料である(図4)。話の内容は、電車を利用した時に手助けをしてくれた高校生についてである。この高校生は、相手がどんなことで困っているかを理解した上で、手助けを行った。困っている人に出会ったらどのように手助けをすることが良いのかを考えるきっかけとする。

イ 主題名「友達をはげまそう」  
資料名「長縄跳びの練習」

これは学級で起こった問題を役割演技で映像化したものである。学級のみんなで長縄跳び大会に向けて練習を行うことになった。長縄跳びが苦手なA君がいよいよ体育館へ向かってみんなと一緒に練習を行う。しかし、続けて縄に引っかかってしまった時に、誰かが「ああ」と声を出した。居たたまれなくなって体育館の隅へ走ってってしまうという子供達の演技である(図5)。この場面を提示することで、困っている友達にどのように接したら良いのかを考えるきっかけとする。

ウ 主題名「野鳥にやさしく」  
資料名「上に実を残した柿の木」

最上部だけ、野鳥のために実を残してある柿の木の静止画である(図6)。柿の木の所有者は低い所の実を収穫した後に、木の上の実だけ残した。何のために残したのか、その心情を考えることで、野鳥に対する優しさを考えるきっかけとする。

エ 主題名「自然を大切にしよう」  
資料名「保護監視員の話①」

コマクサの花などの高山植物の保護監視活動を行っている方が話す映像である(図7)。コマクサなどの保護のため夜は道を閉鎖して人を遠ざけようと活動している。また、歩道を整備してたくさんの人が訪れ、地域の美しさを知って欲しいと願っていることも伝えている。人を遠ざけて自然を守ることと人に自然の美しさを見て大切さを感じて欲しいという相反する行いを捉えることで、自然を大切にするためにどのようにしたら良いかを考えるきっかけとする。



図4 視覚障害者の話②



図5 長縄跳びの練習



図6 上に実を残した柿の木



図7 保護監視員の話①

オ 主題名「環境のために」

資料名「外国から流れて来たゴミ」

新潟県の日本海の海岸に打ち寄せられたゴミの静止画である。この中には数カ国から流れ着いたゴミがあった。ほとんどがペットボトルなどのプラスチック類であった。中には長い間海を浮遊していたため、フジツボの仲間が着生しているものもあった(図8)。これらの映像からプラスチックなどのゴミは遠く離れた所から流れ着いたり、長い間、形を変えずに海上を漂っていたりしたことが分かる。日常の生活の中で、環境にどのように接したら良いかを考えるきっかけにする。

カ 主題名「敬う心」

資料名「夜の浅間山」

浅間山の赤い噴煙を写した静止画である(図9)。火山活動が活発となった浅間山が、夜には、火口近くまで上がった溶岩によって噴煙と山の頂が赤く染まる現象である。昼の噴煙を絶え間なく吹き上げる様子と夜の赤く静かな噴煙の様子を比べ、人の力の及ばぬ自然の力強さを感じるきっかけにする。

キ 主題名「公共の物を大切に」

資料名「散乱するゴミ」

道端の空き地にゴミが散乱している状態の映像(図10)である。この映像を提示することで児童の身近な地域の公共の場が捨てられたゴミで汚されている現状を知ることができる。なぜ汚されてしまうのかその原因を考え、公共の場でのマナーとしてどのようにしたら良いかを考えるきっかけにする。

ク 主題名「家でお手伝い」

資料名「3人のお母さん達の会話」

お手伝いしてくれる子がいる母親達が、その良さについて話し合いをしている映像である(図11)。小さい兄弟の面倒を見てもらった母親が他の家事を済ませることができ、忙しい時に助かったこと。娘が食事を作ってくれ、嬉しくていつもより美味しいと感じたという内容である。ここから児童は家族のために手伝いをする事で家族にどのように受けとめてもらえるかを知ることができ、家族のために仕事を行う意義を考えるきっかけとする。



図8 外国から流れて来たゴミ



図9 夜の浅間山



図10 散乱するゴミ



図11 3人のお母さん達の会話



ケ 主題名「郷土の宝をまもろう」

資料名「保護監視員の話②」

コマクサを郷土の宝として大切に保護している人たちが、雨の日や台風の日など、どんな天候の日でも監視のために山まで登って来るということを話す映像である（図12）。そこから、どんな時でも自分の住む郷土を大切に守っていかうと活動している人たちの心情を考え、児童も自分達の地域を見直し、地域の宝を大切にしていこうと考えるきっかけとする。



図12 保護監視員の話②

## V 実践の結果と考察


### 1 検証計画

検証の観点	検証の方法
授業で提示した映像資料により児童は興味や関心をもって授業に取り組むことができたか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・映像を視聴している児童の様子や発問に対する回答から興味や関心をもつことができたかを観察する。</li> <li>・授業後のアンケート結果を分析する。</li> </ul>
授業で提示した映像資料により道徳的価値について考えるきっかけとなったか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・映像を視聴した後の発問に対する回答から児童が道徳的価値について考えるきっかけになったかを考察する。</li> <li>・授業前後のアンケート結果を分析する。</li> <li>・授業時のワークシートから考察する。</li> <li>・授業の参観者による観察や意見を基に考察する。</li> </ul>

### 2 授業実践

- (1) 主題名 相手の立場を考えて行動しよう 2-2 思いやり親切
- (2) ねらい 困っている人へどのように手をさしのべたら良いか考え、相手の立場を考えて行動しようとする態度を育てる。
- (3) 対象 長野原町立第一小学校 5・6学年 15名
- (4) 場所 5・6年教室
- (5) 準備するもの パソコン、プロジェクタ、ワークシート 児童：筆記用具
- (6) 資料名・資料の概要

資料名	資料の概要	期待する効果
1 カッコウの音声	交差点で目の不自由な方を音で誘導するカッコウの電子音。	目の不自由な人のために作られた設備の存在に気付く。
2 様々な人のための設備	歩道の誘導ブロックや点字ブロック、高速道路のトイレのオムツ交換台や手すり、病院などのエレベータの点字ボタンなどの静止画。他に静止画6点	様々な所で様々な人のために作られた設備の存在に気付く。
3 誘導ブロック上の自転車	歩道にある誘導ブロックの上に自転車が有り障害者が通行できない状態を表す静止画。	他の人のことを考えないで自転車を止めて置くと迷惑する人がいることに気付く。

4 視覚障害者の話①	交差点の横断歩道を渡ろうとしたら、横断歩道上に車が停車してあったため、避けて歩いたら進もうと思っていた方向が分からなくなってしまい怖い思いをしたことを話す映像。	他の人のことを考えない行いで迷惑する人がいることを知る。	
5 視覚障害者の話②	駅で電車に乗ろうとした時、乗り口が分からないで困っていたら、高校生が「どこまで行くの」と声をかけ、手を引いて電車の空いている席まで連れて行ってくれ嬉しかったことを話す映像。	困っていると思われる人にどんなことで困っているか尋ねる映像から、どうしてあげることがその人のためになるのかを考えるきっかけとする。	
6 視覚障害者の話③	道を歩いていたら突然「危ないよ、危ないよ。」とだけ、声をかけてもらった。何が危ないのか分からなかったので、かえって不安になったことを話す映像。	相手へ伝えようとしたことが、相手に理解されたかどうか考えながら手助けを行うことが大切であると考えるきっかけとする。	

#### (7) 映像資料活用のポイント

- ・導入では学習への興味や関心をもたせるためにカッコウの音声を聞いたり、様々な人のために設置された設備の静止画を見たりして、その役割に気付く。
- ・視覚障害者の方の生活の中での出来事を話すインタビュー映像を提示し、相手の気持ちを考えて行動することが大切であると考えられることができるようにする。

#### (8) 展開

	学習活動（○主な発問）	時間	予想される児童の反応	支援と指導上の留意点
導入	1 カッコウの音声（資料1）を聞きその目的を考える。 ○この音の働きを知っていますか。	5	・交差点で聞いた。 ・何かを知らせるためのものだ。	・児童からの回答が無かったら、カッコウの電子音がどこで聞こえるか考えさせる。
	2 様々な設備の静止画（資料2）を見て、その設備目的を考える。（点字ブロック、誘導ブロック、トイレの手すり、エレベータのボタン、オムツの交換台など）		・初めて見た。 ・点字ブロックは目の不自由な人のためのものだ。 ・エレベータのボタンは知っていた。	・様々な所に様々な人のために作られた設備が設置されていることに気付かせる。
展開	3 誘導ブロックの上に自転車が止めてある静止画（資料3）を見て考える。	5	・自転車があってまっすぐに歩けない。	
	4 視覚障害者の話①（資料4）を聞いて考える。 ○運転手さんにどんなことを考えて欲しいですか。	5	・横断歩道を塞ぐように止めないで欲しい。 ・歩道を歩く人のことを考えて欲しい。	・視覚障害者の方が安心して横断できる方法を考えるよう伝える。
	5 視覚障害者の話②（資料5）を聞いて考える。 ○高校生は視覚障害者の方を見て、どうして声をかけたと思いますか。	10	・電車の乗り口が分からないそうだ。 ・迷っているようだ。 ・声をかけ、困っていることを知ろうと思った。	・高校生が、視覚障害者の方の気持ちを考えて手助けしたことをつかませる。



	6 視覚障害者の話③（資料6）を聞いて考える。 ○「危ないよ」と声をかけた人はどうしたら良かったでしょうか。	5	・どうしたら良いか、はっきり言えば良かった。 ・声をかけたらどうなるか考えれば良かった。	・声をかける人がどのように考えて声をかけたら良いのかを考えさせる。
	7 困っている人に会ったらどんなことに気をつけて接したら良いか考える。 ○困っている人に会った時、最初にどうしたら良いですか。	10	・困っている人の様子を良く見る。 ・「どうしたの」と声をかけて、何に困っているかを理解する。	・視覚障害者の方が喜んだ手助けの方法を参考に考えるように伝える。 ・人の気持ちを考えて行動することが大切であると気付かせる。
終末	8 考えたことを発表し合う。	5	・困っている理由を聞いて、相手の気持ちを考えて行動する。	

### 3 結果と考察

導入時にカッコウの音声（資料1）を流すと、「何を知らせるための音だろう」と大部分の児童がカッコウの音声に疑問をもった。ある児童から「交差点で聞いた」という声があがり、続けて「（視覚障害者が）交差点の横断歩道を渡ることができるようにだと思おう。」という意見が出た。このカッコウの音声の設備が目の不自由な方のために設置されたことに児童は気付くことができた。

資料1で児童は設備の設置目的を考えたため、資料2の様々な設備の映像を提示すると興味深く見つめ、その設備がどのような人のためにどのような目的で設置されているのかを考えることができた。

これらのことから児童は使う人に応じて設置された様々な設備が身の回りにあることが分かった。

次に資料3の歩道の誘導ブロックを塞ぐ形で止めてある自転車の映像（図13）を提示すると、すぐに「目の不自由な方が通れない。」「じゃまだ。」などの意見が出された。誘導ブロックの役割を考え、視覚障害者の方が歩道を歩く時にこの自転車はじゃまだであると直ちに考えることができたと思われる。他の人のことを考えないで自転車を止めて置くと迷惑をかけてしまうことがあるということに気付くことができた。



図13 歩道の自転車

視覚障害者の話①（資料4）を視聴すると、「通る人の気持ちを考えた方がいい。」「横断歩道には止めない。」「歩道を避けて止める。」などの意見が出された。また、授業後の感想でも6人が横断歩道上に自動車を止めたことに「だめなことをするなあ、歩く人が迷惑するのに。」「ひどい、自分はしたくない。」などこの行為を非難する意見が記述された。この方の話を聞いたことで他の人のことを考えない行いによって迷惑を被ってしまう人がいるということ考えることができたと思われる。

資料3と資料4を続けて視聴し、その行いについて考えたことで、児童は他の人に対する気配りのない行いを捉えることができ、さらにその問題点を指摘できるようになった。

資料3と資料4を続けて視聴し、その行いについて考えたことで、児童は他の人に対する気配りのない行いを捉えることができ、さらにその問題点を指摘できるようになった。

視覚障害者の話②(資料5)を視聴すると、高校生が視覚障害者の方に声をかけた理由として「視覚障害者の方の様子を見て大変そうだから声をかけた。」「困っていると思ったから声をかけた。」などの発言があった。児童は視覚障害者の方に対する高校生の思いやりの心に気付くことができた。

視覚障害者の話③(資料6)を視聴すると、児童は「視覚障害者の方がよけいに困ってしまったことが分かった。」「何があって危ないのか、はっきり言った方が良い。」「何があるか分からないので戸惑ってしまった。」などと発言した。視覚障害者の方が「危ないよ。危ないよ。」とだけ声をかけられたため、どのように危険を回避したら良いのかが分からなくて混乱してしまったことに児童は気付くことができた。困っている人に対してどうすることがその人のためになるのか、良く考えて行動することが大切であると児童は考えることができた。

最後に、「困っている人に会った時、どうしたら良いですか。」と発問し、自分の考えをワークシートに記述させ、全員に発表させた。その中で「困っている人の気持ちになって考え、何をしたら良いか聞いてから手伝う。」という発言があった。資料5の高校生が視覚障害者の方に声をかけて手助けした話の映像を視聴したことが、児童の発言を導き出したと考える。他の児童7人も「何に困っているのか考えてみる。」「分からなかったら声をかける。」など、どんなことで困っているか分かった後で手助けを行うという内容の発言があった。様々な人の行いを見つめることで、児童は声をかけて困っている人を理解し、より良い手助けを行うことが必要だと考えることができた。相手を理解した上で良い手助けを行おうと考えることは相手の立場を考えて行動することであり、本時のねらいに迫るものである。

参観者から「児童全員が普段以上に自分の考えを発表しようと意欲的であった。」と話があった。ワークシートにもほとんどの児童がねらいに迫る記述をしていた。また、ある児童は授業前のアンケートで、お年寄りや体の不自由な人が困っていたらどうするかとの問いに「いやだから手をかさない。」と記述していた。しかし、授業後には「困っている人の気持ちになって何をしたらよいか聞いてから手伝う。迷わくにならない程度に。」と記述し、本時での学習を自分の生き方に生かそうとする様子がうかがわれた。これらのことから、本授業は道徳的価値を考えるきっかけとなる人の行いを映像資料として取り入れたことで、ねらいである思いやりについて児童の興味や関心を高め、その道徳的価値について十分考えることができ、児童の道徳的心情を養うことにつながったと考える。

## VI 研究のまとめと今後の課題

本研究では、道徳的価値をもつ様々な人の行いや思い、自然の様子を静止画や動画として取り入れた映像資料集を作成した。本時のねらいである道徳的価値に関連する映像資料を授業で活用することで、児童は興味や関心をもって授業に取り組み、授業でねらう道徳的価値について映像資料から考えることができた。このことから授業づくりに映像資料が役立つことが分かった。

今後の課題として、映像と発問の関係を吟味しながら様々な道徳の授業づくりに役立つ映像を収集・作成し、本映像資料集の充実を図りたい。

### <参考文献>

- ・研究報告書 第211集 群馬県総合教育センター(2004)
- ・文部科学省 編 『小学校心に響き、共に未来を拓く道徳教育の展開』 財務省印刷局(2002)